学校番号	３２２

令和８年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	３単位	年次	２年次 （普通科理系）
使用教科書	「高等学校　新物理基礎」　（第一学習社）						
副教材等	「新課程版　セミナー物理基礎」（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

皆さんが物理と聞くと、計算ばかりで難しいというイメージを持つかもしれません。たしかに、ほかの理科の科目に比べ計算が多い科目ではあります。物理は身の回りの自然現象を法則化し、それを数式という形で表現されています。この授業では、それらの自然界の法則を、数式を使って学び、科学的に（物理的に）思考する力を養っていってもらいたいと思います。そのために、ただやみくもに公式を暗記するのではなく、「なぜこうなるのだろう？この後どうなるのだろう？」といった視点をもって取り組んでほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
物理基礎で学習する内容と、自然現象とのつながりを理解し、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な能力を身に着ける。
【思考力、判断力、表現力等】
観察や実験の結果を適切に処理し、科学的に考察し表現できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
物理基礎で学習する内容と、自然現象とのつながりを見いだし、科学的に探究しようとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　運動とエネルギー	第1節 物体の運動	a: 物体の運動やその法則、力の種類、性質を理解することができる。 b: 物体の運動の仕方やその仕組み、力の性質について考え、グラフを用いるなどして表現することができる。 c: 物体の運動などを現実のものと照らし合わせ、力の仕組みを理解し、日常生活に役立てようとすることができる。	ワークシート 定期考査	ノート 定期考査	学習状況 探究活動 振り返りシート
		第2節 力と運動の法則				
2学期	第1章　運動とエネルギー	第３節 仕事と力学的エネルギー	a: エネルギーについて理解を深め、仕事や仕事率、熱、熱効率などを理解することができる。 b: エネルギーの変換や利用など、グラフを用いるなどして表現することができる。 c: エネルギーや熱について振り返って、日常生活や社会に活かそうとする。	ワークシート 定期考査	ノート 定期考査	学習状況 探究活動 振り返りシート
	第2章　熱	第１節 熱とエネルギー				
	第3章　波動	第１節 波の性質	a: 波の性質や媒質について、音について理解することができる。 b: 波の性質や媒質を理解して表現することができる。また、音や楽器のグラフを見ることで音をイメージすることができる。 c: 波の性質を理解することで音について興味をもち、日常生活で聞こえてくる音について調べることができる。			
		第２節 音波				

3学期	第4節　電気	第１節 電荷と電流	a: 静電気、オームの法則、電流計や電圧計の仕組みなどを理解することができる。また、磁気と電気の関連性についても理解することができる。 b: 静電気と電子を関連付けて考えることができる。また、磁気と電気についても関連付け考えることができる。 c: 電力や電力量など日常生活に関連しやすいことについて考え、発電所の仕組みについて振り返り、日常生活や社会に活かそうとしている。	ワークシート 定期考査	ノート 定期考査	学習状況 探究活動 振り返りシート
		第２節 電流と磁場				
		第３節 エネルギーとその利用				

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度